

使われなくなった空き家を人が集まる場に—。空き家がゲストハウスに生まれ変わる



大根占中央商店街の「旧浜園商店」を改修し、簡易宿泊施設を備えるゲストハウスとして活用するプロジェクト。今年の6月頃オープン予定。

空き家解体補助事業により、これまで96棟の空き家解体を進めてきました。解体補助金についてはニーズがあることから、引き続き補助率を下げ、さらには5年間延長。今年度から相続人などが特定しにくい老朽空き家に対し、モデル的に地域提案型空き家除却自治会活動事業を新設し、自治会のコミュニティ活動を支援しながら地域課題の解決を図る取り組みを進めます。6月には旧浜園商店をリノベーションしたゲストハウスもオープン予定。空き家を活かした新たな取り組みも進めていきます。

増え続ける「空き家」問題
課題解決のキは地域力

【一般会計予算】
3月議会最終本会議で令和2年度当初予算が可決

62億5,336万円

住民ニーズを把握し、必要な事業を選択した今年度の当初予算は、前年度比約2億6千万円の減となりました。未来を見据えた持続可能なまちづくりを進めるための貴重な予算。その使い道を施政方針に沿ってお伝えします。

新たな自主財源の確保、事業の選択が鍵となる

当初予算

まちの最上位計画である
総合振興計画を見直す

町の基本構想、最上位計画の「錦江町総合振興計画」の見直しに向け、昨年度から改訂作業を進めています。小学生から大人まで延べ25回、400人以上の町民とまちづくりワークショップや、町民幸福度調査を実施。今年度は、これまで出された意見を整理し、総合振興計画策定に向けて見直しを進めます。

総合振興計画は、総合戦略や過疎自立促進計画、地域福祉計画などあらゆる実施計画の方向性を示す最上位計画。9月頃までに計画の素案を作成し、住民ワークショップなどを開催して意見を集約・反映します。令和3年度からの5年間、私たちを未来へ導く光として策定します。

地方での新たな働き方で注目を集めている
サテライトオフィス&ワーケーション



旧神川中学校の2階をリノベーションして貸出を行っているサテライトオフィス。地方での新たな働き方として注目を集めています。

地方創生第2期がスタート
働き方改革で企業誘致を

第1期総合戦略の柱として進めてきたサテライトオフィス誘致は、平成30年度に進出した1社のみですが、引き続き新たな仕事の創出と、町内での仕事起こしを積極的に進めます。休暇中に旅先などで仕事をする新たな働き方「ワーケーション」の誘致も積極的に行います。

今年度からアントレプレナーシップ教育を導入
変化に対応し課題解決できる人材育成



昨年は、地域活性化センター神川にサテライトオフィスを置く(株)あしたのチームによるキャリア教育を開催。全国11カ所の社員にWEBを通じて質問するなど、多様な働き方を学びました。時代や環境の変化に対応しながら課題に気づき、解決に向けて新たに挑戦できる人材育成、アントレプレナーシップ教育に取り組みます。

家庭学習を補完し、基礎学力の向上を目的に、昨年7月から常設の公営塾を開校しています。高校や大学がない、学習塾に通うにも車での送迎が必要といった地理的、経済的負担などによる教育の地域格差を少しでも解消し、子育てしやすい環境整備を図ります。持続可能な開発目標であるSDGsの視点を取り入れた小学生向けワークショップ、常識を乗り越えチャンスをつかむ力を養成する中学生向けのアントレプレナーシップ教育も今年度新たに導入します。



教育格差解消に向けて
昨年7月公営塾スタート

平等な学習機会でも夢にチャレンジ
公営のMIRAI 寺子屋塾スタート

放課後の学校を活用して昨年7月からスタートした公営塾。遠隔授業による平等な教育機会により、地方でも子どもたちが夢に挑戦できる環境整備を進めます。



町内6小学校122名の子どもが描く夢
総合振興計画の見直しに向けて

計画の見直しに向け、町内の小学校でワークショップを開催。地域の魅力を再認識することで未来を見据えた計画を策定します。

まちづくりの指標に幸福度の視点
誰もが幸福を感じる町を目指して

町民3,000人に実施した町民幸福度調査の結果を政策の基礎データに活用。総合振興計画にも反映させる方針。



地域資源を最大限活用した
再生可能エネルギーの導入

地域資源を活用した分散型エネルギーを地域内で循環させ、主に基幹産業である農業のエネルギーコスト低減化による高収益体質の構築、豊富な森林資源やバイオマス資源など、再生可能エネルギーの導入についてもあらゆる可能性を検討しながら地域産業の活性化、持続可能な地域社会の構築を図ります。

地域資源の活用と防災拠点施設の機能確保
「木質バイオマス発電施設」運用スタート

防災拠点となる役場田代支所や避難所の田代保健福祉センター、宮前水源地に電力と熱を供給できる「木質バイオマス発電」施設の本格運用がスタート。



再生可能エネルギーのあらゆる可能性を探る
錦江町エネルギーマスタープラン策定

農業のエネルギーコスト削減や、地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入に向け、錦江町エネルギーマスタープランを策定しました。

